

ネパール・チュルー最東峰（6038m）

L：田中 M：尾谷、千葉、小野（睦）、井出、他1名

2012年12月23日（カトマンズ出発）～1月11日（カトマンズ着）

航空会社：井出（中国東方航空 12月18日発～1月18日帰国）

：尾谷、千葉、小野（大韓航空 12月20日発～1月15日帰国）

：田中、他1名（タイ航空 12月21日発～1月14日帰国）

田中のスケジュールを本隊（1人で本隊？）として計画した。札幌からネパールへ渡航する際、通常3つの航空会社（ルート：インチョン経由、バンコク経由、香港経由）から選択するが、比較的安価な大韓航空は、カトマンズ～インチョンが週3便、帰国日が1月15日（火）となり、週初めの勤務日に間に合わず、ひんしゅく（すでにサラリーマンとして失格しておりますが・・・）を買う。香港経由（キャセイ）は2年続けて経験したが、香港（往路）での接続が悪い上、カトマンズ着が22時過ぎのため、今回はパスした。井出の使用した中国東方航空（こんな航空会社があったのか！）は成田～北京～昆明～カトマンズと乗り継ぎ、なんと往復5万円（成田発着）を切る安さである。時間に余裕のある方には大変魅力的であるが、ここまでいくと、人として再生出来なくなりそうで嫌だ。航空会社を自由に選択し、現地で集合・解散するという方法は、それぞれの参加者の都合を反映しやすく良い。

さて、今回目指すチュルー最東峰だが、昨年ネパールに渡航した際、ツルー・タマン（今回のネパール人リーダー）と相談の上、昨年のうち決定した経緯がある。その1.標高6000mを超えるピーク その2.テクニカルなクライミング技術を必要としない その3.ピークからの眺望が良い 等の条件に合致するピークを探し、今回の計画となったわけだ。特に「3」は重要である。頂上に達したが、隣にドカーンと聳える山が・・・では興ざめである。また、今回は登山活動終了後、5000mを超えるトロン峠越えの山場があり、一粒で二度おいしい計画とした。

12月21日：巨大なザックを担いで18時過ぎに会社を出る。支店長より無言のプレッシャー。しかし出てしまえばこちらのモンである。JR車内は混雑していて、次回は指定席希望だ。20時30分発の全日空は余裕で間に合った。深夜便は時間短縮で有効だが、年齢を重ねる毎にきつい。

12月22日：現地時間（日本より3時間15分進む）13時30分カトマンズ着。機外でバスに乗るが、わずか30mである。歩いた方が早くないか？ 先発組と合流し隊荷の整理。コスモ・トレック（現地エージェント）の倉庫に2年間置きっぱなしのプラブーツ（コフラック）をツルーに処分してもらう。コックは1998年ダウラギリI峰のキッチン・ボーイのジャガディスだ。出世しておった。

12月23日：5時30分起床、6時40分コスモ・トレックよりバス。13時ベシサハール着。コスモのスタッフ8人、ポーター17人分相当のロバ（すでに先発）が隊の総勢。ブルプレ

まで徒歩 2 時間 30 分。16 時ブルプレ着。

12 月 24 日：朝、犬の遠吠えで起きる。夜中の 12 時だ。「誰かあの犬に毒まんじゅうを！」と毎回同じ事を考える。すでに腹の調子悪し。シャルチョールまで歩くが、車道歩きがづらい。踵を靴擦れし、靴の踵をナイフで切る。

12 月 25 日：タルまで歩く。トランプ（宿の娘とゲーム）の宿。トランプが 2〜3 枚足りなくてもプレイ出来る、ネパールのゲームが面白い。車多く砂埃ひどい。道中苦痛。



【商売っ気ない店でサンダルを探す井出君】

12 月 26 日：バガルチャップでフランス人が自ら撮影し、自分の装備を解説していた。フランス人＝ナルシスト・・・とインプット。フランス人は「私」に嫌われることに熱心な国民だ。アンナプルナⅡ峰でかい。ティマンまで歩く。マナスル眺望の宿。尾谷さんの「マナスル！」の要望がやっと叶う。3000m 近くなり寒い。ツルーが「イデサン、ハズカシガラズ、タベナサイ」と井出君にダルバード（ネパール定食）を勧めていたが、ニュアンスが少々違うよ。



【謎のアラブ人～小野さん～】

12 月 27 日：チャーメまで。温泉があるとのことだったが、洪水で湯船なし。無理やり入る。「冷たい！熱い！」の連続で子供に笑われる。田中の飲酒はここまで。鏡を宿に忘れた。

12 月 28 日：ピサンまで。途中、コマツのブルドーザーが道をゴキゴキと造っておった。ダイナマイトで爆破しながら道を強引に造っている所もあり、この道が完成するまでネパール人は何人死ぬのか？ ピサンは風の町。とにかく風が強く、寒い。アッパー・ピサンまで小野さんと順応活動する。この時期、ピサンは寂しい。

12 月 29 日：フムデまで。頭をゴシゴシ洗ったが、タオル即凍りつく。飛行場あるが、この時期フライトなし。小野さんより「札幌のまごころ整骨院は保険証使えるよ」の情報あり・・・と日記に記載（相当腰が痛かったとみる）。パサン（ツルーの弟）が仮 BC までジャガイモ運ぶ。



【頭寒足熱とは申しますが・・・】

12月30日：仮BCまで行く。コックのジャガデイスの初メニュー～キャベツの千切り、ワカメと大根の味噌汁、インゲンの胡麻和え、巻き寿司、卵焼きそば、りんご～。出たよ、炭水化物セット。

12月31日：BC入り。標高4900m付近。

1月1日：HCまで荷上げ。皆調子悪く。食が進まなくなってきた。昼食はザル蕎麦であるが、当然のように田中は下痢する。そして夕飯時、ホール・ケーキである。なぜこのような嫌がらせを毎回実行するのか。ネパール人分からぬ。



【冷たい蕎麦は腹に悪い】

1月2日：HC泊まる。田中・小野・井出と尾谷・千葉のテント割。田中は痛恨のガスヘッド忘れ（あとで確認したが、計画書にしっかり記載あった）。ネパール人は、ツルーとパサンとゴンパ（25歳）がHC入り。井出君非常に具合悪そう。

1月3日：3時起床。4時30分出発。小野さん、井出君は朝食をほとんど食べられず、田中が3人分完食する。自分の食欲が憎い。5900mで千葉さんが付いてこれなくなって、ツルーにサポートお願いし、パサン、ゴンパと行く。10時頃ピーク着。予想と異なり、ナイフ・リッジ上にピークがあり、2人程度しか同時に立てぬ。しかし、頂上踏めて良かった。眺望も良し。コルで井出君吐く。田中は右足凍傷。HCで焼きそばという、ヘビーなおもてなし。井出君また吐く。夕飯も田中以外は完食出来ず。そして田中はお決まりの下痢。



【パサン、ダンライン足りないですけど・・・】

1月4日：フムデ泊。田中の凍傷は水泡が出来、靴のインナー外していく。感染予防でクラビット服用。

1月5日：ヤクカルカ泊。右ひざ痛く。世田谷食品のグルコサミンのCMが頭の中でグルグル。

1月6日：フェディ泊。小野さんがパサンに「これをキュッとして・・・」と話していたが、「キュッ」とは「捨てる」ことであつた。頭の中も疲労困憊。

1月7日：宿が大変混雑していて、朝食なしの4時発。強烈な寒さの中、トロン峠越え。カメラのバッテリー動かず、写真なし。マイナス20度程度ではなかったか。ムクチナート〜ジョムソンは車両移動。ものすごい砂埃。徒歩は勧めぬ。ジョムソン泊。田中は飲酒解禁。

1月8日：タトパニ泊。温泉が凍傷に良いと思ったが痛む。

1月9日：腰に悪いサスペンション壊れのバスでベニまで。余りの酷さに車をレンタルしポカラへ。

1月10日：ポカラにて休息。田中は1日寝ていました。

1月11日：カトマンズへ移動。グリーン・バス22\$なり。井出君はポカラに残る。

1月12日：カトマンズ泊。寒い。

1月13日：ネパール出国（田中）〜バンコク経由。

1月14日：成田〜新千歳で帰国（田中）。新千歳空港で蕎麦食う。また、来年を誓う。

文責：田中 規雄



【アー足が痛い】

つづく